

県立植物園周辺で確認されたオオナンバンギセル

久原 泰雅 (新潟県立植物園)

国内に自生するハマウツボ科ナンバンギセル属には、ナンバンギセル *Aeginetia indica* L. とオオナンバンギセル *A. sinensis* G. Beck があり、県内にもその両種が分布することが解っているが、ススキヤシバサゲ、ヒメノガリヤスなどの株元に寄生し、生育地が植生の単一な草地であることから、報告が多くない (植物同好じねんじょ会 2005)。

2007年7月10日に、県立植物園職員の橋本 永氏より新潟県埋蔵文化財センターの北法面のススキ群落に大形のナンバンギセルが確認されたとの報告があったので確認したところ、オオナンバンギセルであった。県内では他に、高橋庄一氏より弥彦山頂付近のススキ群落に生育すると伺っているが、他の報告は得ていない。ここでは、同年9月3日に県立植物園の駐車場の南側にあるススキ群落で確認したナンバンギセルと共に報告する。

県内にはハマウツボ科としてオニク *Orobanche coerulescens* Stephan f. *coerulescens*、ハマウツボ *O. coerulescens* Stephan f. *nipponica* (Makino) Kitam.、キヨスミウツボ *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc. の分布が確認されており (植物同好じねんじょ会 2005)、帰化植物のヤセウツボ *O. minor* Sm. も分布する可能性もあるが、確認がいずれも少ないため今後の報告を待ちたい。

<調査日および調査地>

- ・オオナンバンギセル *A. sinensis* G. Beck : 2007年7月10日。新潟市秋葉区金津93番地 1 新潟県埋蔵文化財センター北法面 (5639-5019) [写真1]
- ・ナンバンギセル *A. indica* L. : 2007年9月3日。新潟市秋葉区金津186番地 新潟県立植物園駐車場南 (5639-5019) [写真2]

<形態的特長>

- ・オオナンバンギセル：がくは先が鈍く、花冠裂片の縁に細かな鋸歯がある (山崎 1981) [写真3]。
- ・ナンバンギセル：がくは先がとがり、花冠裂片の縁には鋸歯が無く、全縁 (山崎 1981) [写真4]。



写真1 オオナンバンギセルの生育状況 写真2 ナンバンギセルの生育状況

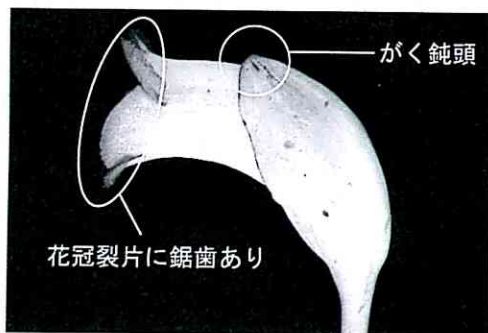


写真3 オオナンバンギセルの花

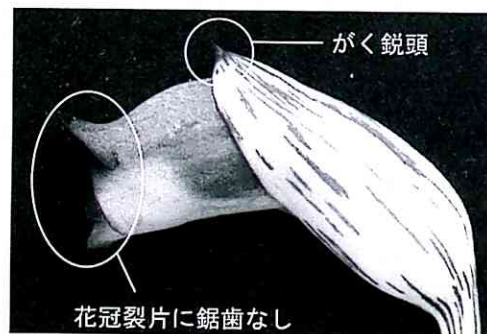


写真4 ナンバンギセルの花

参考文献

- 植物同好じねんじょ会 (2005) 新潟県植物目録 [チェックリスト] (予報) 維管束植物・コケ植物. 新潟県植物目録編集委員会. : 47.
- 山崎 敬 (1981) ハマウツボ科ナンバンギセル属. In: 佐竹義輔ら (1981) 日本の野生植物 草本Ⅲ. 平凡社. : 134.